

令和 6 年度 第 2 回 羽島市歴史民俗資料館運営協議会（会議要旨）

日 時	令和 7 年 2 月 19 日（水）午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分
場 所	羽島市歴史民俗資料館 2 階 映画資料室
出席者	【運営協議会委員】出席者 7 名 不破洋（会長）、平松俊英（委員）、渡邊修（委員）、松下友幸（委員）、 桐井康次（委員）、武山昭見（委員）、柘植卓伸（委員） 【羽島市】出席者 2 名 岩田睦巳（生涯学習課長）、大野瑞季（同課主事） 【事務局：羽島市歴史民俗資料館】出席者 3 名 松下友幸（館長代理）、奥田千登勢（管理係長）、杉山文彦（管理係）
内 容	I. 市民協働部挨拶 II. 会長挨拶 III. 議題 1. 令和 6 年度事業報告について 資料に基づき事務局より今年度の事業報告を説明 〈質疑・応答〉 （会 長） 市内小学校の中で「昔の暮らしと道具展」体験学習に参加していない学校があるが、どのような状況であるのか。 （事務局） 校長会にて生涯学習課が周知を行っているが、今年度は 3 校が参加していない。参加していない学校の 1 つは他市の博物館で体験学習を行っていると聞いている。歴史民俗資料館は郷土について学ぶのに最も適した施設であるので、参加していただけるよう周知したい。 （会 長） 教育委員会と連携し、働きかけを行っていただきたい。映画のつどいについて、上映できるフィルムの数はどのような状況であるか。 （事務局） フィルムの劣化により、上映できるフィルムは減ってきている。現在使用しているフィルムは 16mm のものであるが、35mm のフィルムを検討する際には、高価であることや修理を行う技師が高齢化により不足しているといった問題を考慮する必要がある。 また、DVD で上映する場合も同様にコストが高い。コストが上昇すれば、上映できる回数が減り、客足が遠のく原因になる。

	(会 長) フィルムの劣化による問題は、いずれ対応しなければならず、今後も検討していく必要がある。 映画鑑賞者数については、コロナ禍と比べて回復傾向にあるようだ。 (事務局) コロナ禍で映画の上映を中止していた期間があり、その間に客足が遠のいてしまったが、少しずつ観客が戻ってきている。 (会 長) マイコレクション展について、盛況であったことは評価できる。「はじめての木彫り体験」ワークショップについて、最近の子どもたちはナイフを使用する経験に乏しいため、使用に伴う危険を考慮し、開催の方法を検討する必要がある。 (委員 1) 木彫り体験の参加者の大人と子どもの内訳はどのようなか。 (事務局) 大人の方が子どもに比べて多い。子どもの参加者には大人が側に付く形となっていた。 (委員 1) こうした取り組みをコミュニティセンターでも行うことができるか。 (会 長) 見て親しんでもらうことで、造形をする気運が高まる。指導者の不足といった課題はあるが、コミュニティセンターのような施設でも開催できると良い。 古文書学習会について、参加者が古文書を読めるまでに習熟し、ボランティアとして資料整理に参加していることは良い成果だ。 「宝暦治水の歴史像をめぐって」講演会では、伝承ではなく、文書に基づいた考証ができ、市民にとって価値のあるものであった。 2. 令和 7 年度事業計画（案）について 資料に基づき事務局より来年度の事業計画を説明 〈質疑・応答〉 (会 長) データのデジタル化は推進されているか。 (事務局) 寄贈を受けた資料については、資料管理システムに登録しており、検索することで閲覧できる。 なお、資料データは、現在は専用のサーバーにて保管しているが、来年度に新システムを導入することにより、
--	--

	クラウド管理に移行する。 (会 長) クラウド管理に移行することは、費用の面から見て合理的なものである。 夏休み歴史教室については、何をテーマとする予定であるか。 (事務局) 西中野渡船について、その存廃が現時点で不明であるため、未定となっている。 市内のみならず、他団体と連携をし、他市や他地域へと範囲を拡大し、子どもたちの興味・関心の対象を広げられるような事業を検討している。 閉会
--	---